



ほけんだより

3月号

令和7年3月1日
青物横丁えほん保育園

たくさんの思い出でいっぱいとなった1年も締めくくりの時期となりました。4月の頃に比べ、心も身体も大きく成長した子どもたち。4月から新たなスタートを切れるように、今から生活習慣をしっかりと見直しましょう。

今年度の感染症まとめ!!

4月から2月までに、園で確認した主な感染症の罹患者を表にまとめてみました。

	インフルエンザ	アデノウイルス	りんご病	手足口病	アタマジラミ	RSウイルス	マイコプラズマ肺炎	胃腸炎 (嘔吐・下痢症状)
4月		1		3		1		1
5月	園児2, 職員1	3		2				0
6月		2						18
7月				5			1	
8月							2	
9月				7	9			
10月				3			1	
11月				4			1	
12月	2		1					園児15, 職員2
1月	園児8, 職員1		2					1
2月	1		4					3

年度初めの4月～5月は例年同様に多くの発熱者がみられました。発熱した園児さんの多くは「風邪」とのことで1～2日で軽快できたようです。この時期は年度初めで新しい環境に慣れる時期でもあり、元気になる園児さんも疲れを感じていたのでしょう。日々の疲れから免疫力が落ちていたことも風邪を引きやすかった一因かと思われます。例年、夏に流行る手足口病も4月からぼつぼつと一年を通して感染がみられました。6月と12月には胃腸炎が流行り、どちらも20名弱の感染者となっており、流行時期や感染者数は例年と同じ傾向となりました。今年度目立ったのは、9月のアタマジラミと年末からのりんご病(伝染性紅斑)です。アタマジラミは保護者の皆様のご協力もあり、完全に収束するまで時間がかかりましたが、2クラスのみ感染に留まり、なんとか収束することができました。りんご病は感染力がなくなって、頬や腕に紅斑の症状がでてきてから診断がついたため、発症前の風邪症状の段階(潜伏期間4～14日)で感染力が最も強く、気付かないうちに周囲へ拡散してしまいます。2024年の秋ごろから全国的に流行しており、園内でも2月末時点で新規感染者がいるため、引き続き注意して子どもたちの様子を見ていきたいと思えます。保護者の皆様には普段からご協力いただいておりますが、前日に発熱や嘔吐下痢などの症状があった場合は、次の日に無理して登園はせずに一日ご自宅で様子を見て、症状が軽快したことを確認してからの登園をお願い致します。お仕事の調整も難しいこともあるかと思いますが、引き続き、園内の感染拡大を防ぐためにもご協力をお願い致します。

気持ちが不安定な時期!?指しゃぶりについて



新年度を控え、多くの子ども達が「1つ大きくなる」という喜びでいっぱいな時期です。ただ、なかには大人の期待を過剰に受け止めて、気持ちが不安定になる子もいます。今までなかったのに、急に「指しゃぶり・つめかみ・チック・どもり・体の一部を痛がる」などの姿が見られたら、担任までお知らせ下さい。

これらの行動は不安や緊張を、自分なりの形で処理するためにとる行動と言われています。それ以外に、やってみたら落ちついたから…と深い意味のないものも。

無理にやめさせると別の行動をとることもあります。3歳以上になると言われていることが理解できるようになるので、優しく声をかけても良いでしょう。ただ、自然に治ることが多いので、心配しすぎず見守ってあげましょう。

	指しゃぶり	おしゃぶり
	発達とともに自然によくなる	長期化しやすい
頻度	1歳半で約30% 3歳で20% 5歳で10%	日本では不明 海外では6歳以下の児の60%が「使用経験あり」
メリット	安心感を得られる	安心感を得られる 泣き止みやすい 入眠がスムーズな効果も
デメリット	歯並びが悪くなる 中耳炎リスクとの関連は不明	歯並びが悪くなる 中耳炎リスクあり
やめさせるタイミング	3歳までは焦らなくてよい	1歳を過ぎたらホルダーを外して常時使用しない 2歳半くらいで中止
医療者に相談	4～5歳以降を検討	4歳以降対応を検討